

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり倉敷		
○保護者評価実施期間	R7年12月11日		～ R8年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R7年12月11日		～ R8年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの状況や状態を評価し、個々に合わせた個別支援計画を立案、遂行しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの一人ひとりに対し、様々な職種の職員（保育士、児童指導員、作業療法士、社会福祉士）でそれぞれの持ち得ている視点から意見を出し合い、個別支援計画を立案している。</li> <li>・日々の朝礼・終礼にてお子さんの様子共有すること、今後のを行うことで統一した支援提供ができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの特性、日々の様子、ご家族の思い等、多面的に把握し、個別支援計画立案や支援につなげていきます。またお子さん本人の強みや好きなことを取り入れた支援を行っていきます。</li> <li>・チーム全体の支援の質の底上げの為にアセスメント力の向上を図っていきます。その為の各種研修や勉強会を実施していきます。</li> </ul>
2	様々な活動プログラムを提供しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイガイドライン、支援プログラムを基に、発達に合わせた活動、日常動作獲得の為に活動、運動活動、社会性・コミュニケーション向上の為に活動、卒業後を見据えた取り組み、季節に応じた活動等、固定化されないよう、組み合わせながら行うようにしている。</li> <li>・「やらされている」ではなく「やってみたい」と思うような働きかけを行いながら、活動の中で楽しく取り組めたり学べたりできるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動目標、活動時期、活動メニュー、効果等を可視化し統一性や連続性を持った活動プログラムの仕組みを作り、実践できるようにしていきます。</li> <li>・子どもたちの意向も踏まえながら活動を行っていきます。</li> </ul>
3	保護者向け勉強会を開催しているところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニング、就学、サポートブック、ビジョントレーニング等の勉強会を開催している。また法人内の他事業所が開催している勉強会（障害年金、言語聴覚士、卒業後の生活等）の情報発信や参加の働きかけも行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢期以降の保護者の方が学びたいと思う内容の勉強会を開催する必要がある。ライフステージごとの課題に対応した勉強会開催の為に、外部講師を依頼し行うことも検討していきます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や、地域で他の子どもと活動する機会がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共機関利用、買い物活動等、事業所外に出て活動する機会は設けているものの、その中で地域と交流をもつための機会を提供することが出来ていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同法人内で作成したものをマルシェで販売する等を行う事で利用児さんと社会や地域とのつながりを持つ機会を作っていければと思います。</li> </ul>
2	学齢期支援における経験やスキルが未熟である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の選択肢を職員が具体的に学び、卒業後に向けて見直しをもった支援を行っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢期支援に必要なサポートを同法人コトノハ放デイや成人期事業所から学ぶ機会を設けていくことや、卒業後の進路（就労AB、生活介護、就労移行）について学び、今後の支援力に反映させていきたいと思っています。</li> </ul>
3	居室の活動スペースが限られており狭さを感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室のスペースが限られている中で、成長と共に身体が大きくなっている利用児さんが動きの多い活動を行うことは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内で出来る活動を行っていくと同時に、屋外での活動を組み合わせて、活動や支援の充実を図って行きます。</li> </ul>